

令和元年度 菊陵中学校便り

菊陵だより

学力特集号

令和元年11月12日
北九州市立菊陵中学校

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

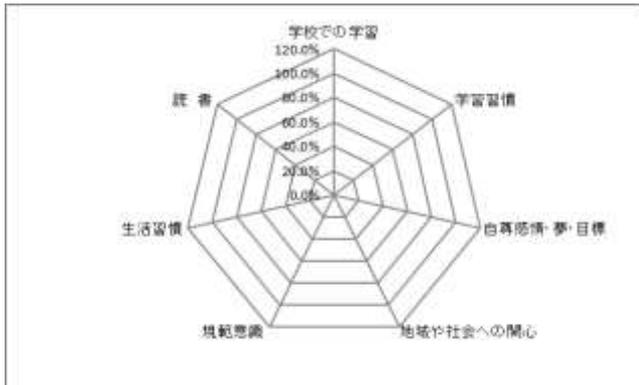
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	問題文の内容を把握できていない上に、選択肢の中で答えに寄せた語や言葉を選んでいる。特に自分の考えを書く問題や具体例を書く問題に関しては無解答率が高いところが課題である。	下回っている
数学	数量や図形などについての意味を理解する問題に関しては、全国平均を少し上回る結果を残しているが、関数の問題は正答率が低く、また、説明する問題に関しては無解答率が非常に高いところが課題である。	下回っている
英語	記述式の問題になると無解答の生徒が多い。英文を理解する力も必要であるが、その話題について自分の考えをまとめ、それを正しく英語にすることに大きな課題がある。また、抵抗感を持つ生徒も多い現状もある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- 家庭学習に関しては、時間をかけて学習している生徒の割合は、全国平均と比較しても遜色ないが、一時間未満の生徒の割合が非常に高く、学習習慣の定着という点に関しては課題がある。
- 読書を全くしない生徒の割合が半数を超えており、読解力や表現力、説明する力が身につけていない要因の一つと考えられる。
- 発表する際、グループで話し合う際、自分の考えをまとめることや深めることができていると感じている生徒が多いため、そのような場を数多く設定していく必要がある。
- 1割の生徒が朝食を食べず、起きる時間が安定していない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

全校で朝読書を行うことで、活字に触れる機会を増やし、読解力を身につけさせ、説明力や表現力の向上に取り組む。また、話し合い活動を充実させることで思考力を磨いていく。1日1ページノートの取組や教科コンクールの取組を継続して行い、基礎学力の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

栄養教諭や食育担当を中心として、家庭と連携し、食育を推進していく。また、規則正しい生活習慣を身につけさせるため、学校生活で時間を守って行動する大切さ等を認識させる。